

7月

新着本の紹介



青字は児童書

書名	著者名	内容
インドラネット	桐野 夏生	平凡な顔、運動神経は鈍く、勉強も得意ではない——何の取り柄もないことに強いコンプレックスを抱いて生きてきた八目晃は、非正規雇用で給与も安く、ゲームしか夢中になれない無為な生活を送っていた。唯一の誇りは、高校の同級生で、カリスマ性を持つ野々宮空知と、美貌の姉妹と親しく付き合ったこと。だがその空知が、カンボジアで消息を絶ったという。空知の行方を追い、東南アジアの混沌の中に飛び込んだ晃。そこで待っていたのは、美貌の三きょうだいの凄絶な過去だった……
琥珀の夏	辻村 深月	かつてカルトと批判された〈ミライの学校〉の敷地から発見された子どもの白骨死体。弁護士の法子は、遺体が自分の知る少女のものではないかと胸騒ぎをおぼえる。小学生の頃に参加した〈ミライの学校〉の夏合宿。そこには自主性を育てるために親と離れて共同生活を送る子どもたちがいて、学校ではうまくやれない法子も、合宿では「ずっと友達」と言ってくれる少女に出会えたのだった。もし、あの子が死んでいたのだとしたら……。30年前の記憶の扉が開き、幼い日の友情と罪があふれだす。
本心	平野 啓一郎	舞台は、「自由死」が合法化された近未来の日本。最新技術を使い、生前そっくりの母を再生させた息子は、「自由死」を望んだ母の、〈本心〉を探ろうとする。母の友人だった女性、かつて交際関係にあった老作家……。それらの人たちから語られる、まったく知らなかった母のもう一つの顔。さらには、母が自分に隠していた衝撃の事実を知る——。
雷神	道尾 秀介	どんでん返しの先に待つ衝撃のラスト……。道尾ミステリ史上、最強の破壊力！ ある一本の電話が引き金となり、故郷へ赴くこととなった幸人。しかし、それは新たな悲劇の幕開けに過ぎなかった——。村の祭が行われたあの日。一筋の雷撃がもたらした、惨劇の真相と手紙の謎。父が遺した写真。そして、再び殺意の渦中へ身を置く幸人たちを待ち受ける未来とは、一体。著者の新たな到達点にして会心の一撃
医学のひよこ	海堂 尊	ひよんなことから東城大医学部に通うことになった、生物オタクの中学3年生・曾根崎薫。仲間たちと洞穴を探検していると見たこともない巨大な「たまご」を発見する。大事に育てようとする薫たちの前に立ちはだかったのは、動物実験を目論む研究者と日本政府だった。薫たちは、おとなたちの謀略から大切なモノを守り切れるのか？ 〈いのち〉を巡る大冒険、開幕！

宗棍	今野 敏	松村宗棍（まつむら・そうこん）は13歳の頃、友だちをいじめた少年たちを打ち倒した。それによって高名な武術家・照屋（てるや）に武の才を見出され、彼に弟子入りする。幕末、琉球王国が滅びゆく時代に、国王の武術指南役を務めた松村宗棍。強さとは何かを追い求め、琉球空手の礎を築いた男の生涯を描く、著者入魂の長編。
片見里荒川コネクション	小野寺 史宜	寝坊で卒論を出しそこね、留年が決定した22歳の海平。片見里の実家に報告に戻ると、ばあちゃんからこづかいとともに頼まれた。東京に出た同級生・中林継男を探してくれと。一方、大学入学で片見里から上京して、一人で生きてきた荒川在住の75歳の継男。同郷の小林から「オレオレ詐欺」の受け子の代役を頼まれ、老女の家を訪ねることに。同じ片見里出身ということ以外接点がなかった継男と海平が荒川で出会った。継男はある〈ヤバい〉ことを海平に相談する。当たり前前に正しく生きることの大切さが、優しく染みる、長編小説。
あるヘラジカの物語	星野 道夫（原案）, 鈴木 まもる（絵と文）	アラスカのヘラジカの群れに見知らぬオスが近づいてきた。群れを率いるオスとの戦いが始まると、互いの角がからまり、はずれなくなって…。写真家・星野道夫が遺した写真から生まれた、大自然のドラマと生命のつながりの物語 親子で読んでほしい絵本大賞（第2回）
こげぱん 今日もパンやのかたすみで	たかはしみき	こげている「こげぱん」。苦しい固いし、何事も投げやりで、無気力、無関心。思い通りの人生じゃないけど、でも、こんな今日も悪くないかも…。

【お知らせ】

新しい雑誌を配架しました！

■一般書

■NHKテレビテキスト「囲碁講座」 ■「すてきにハンドメイド

■「ESSE」

■児童書

